

森は海の恋人（11 太平洋ごみベルト地帯）

海岸にたくさんのごみが流れ着いているのをご覧になったことはおそらく誰にでもあると思います。木片・漁業道具・釣り針・ペットボトル・ビニールのレジ袋・プラスチック製品などなど。これらのごみの大半は都市部から出る生活廃品です。川を伝って海に出ます。

海岸に打ち上げられているのは海に出たごみのほんの一握り、また一部は太平洋を渡って遠くアメリカやカナダの海岸にも流れ着きます。でもほとんどのごみはどこの陸にたどり着くことなく海を漂っています。

太平洋には海流と呼ばれる流れがあります。太平洋全体を数年かけてゆっくりぐると掻きまわすように流れています。太平洋のど真ん中、ミッドウェイの東側にその流れがよどむ一帯があるそうです。太平洋のごみは実はその淀みに集まっています。面積にして日本の約4倍。日本の面積が37万㎡ですから約150万㎡。このごみの太平洋の集積場所のことを「太平洋ごみベルト地帯」と呼ばれています。

有機物は分解されるのが早いのでこのごみベルトにたまっているごみのほとんどはプラスチック製のものだそうです。そのプラスチックも紫外線で徐々に分解され極小の破片、微粒子化していきます。今世界的に問題になっているマイクロプラスチックです。マイクロプラスチックは海流だけでなく風波で遠く広がり太平洋全体の水面下に広がっているようです。

東日本大震災では三陸海岸に多種多様なものが流されました。その中には油性の廃棄物・化学薬品なども含まれますが最終的に行き着く所はこの太平洋ごみベルトにたどり着き集積されることとなります。

メルトダウンしたフクイチの原子炉からは今も地中に放射性物質が漏れ出していますが、地下水に混ざり結局三陸の海に流失します。その放射性物質もまた漂流したのち太平洋ごみベルトに行き着くのでしょうか。

また規模こそ違えこうしたごみの集積場はいろいろな海にあるようです。南太平洋・南北大西洋・インド洋・日本海にもあるそうです。地球上の生命の起源である海に人が関心を示さなくなった。人の心が海から離れていったらこの先地球はどうなるのか？今のことで精一杯で数100年後のことなんて考えられない。でいいのでしょうか？

推薦 web：ウィキペディア（Wikipedia）「太平洋ゴミベルト」

TENSION 井上好司